

平成30年度普及活動成果集



**京築の魅力を創造！
たくましい担い手、躍動する産地**

 **福岡県京築普及指導センター**

平成31年3月

はじめに

京築地域の農業者並びに関係機関の皆様には、平素より普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

昨今の異常気象とそれに伴う自然災害の多発は今年度も例外でなく、各地で風水害や地震が起こり京築地域でも夏季の高温干ばつが厳しい一年でした。

そのような中、農業者、関係機関の皆様のご協力を頂き、県育成キウイフルーツの「甘うい」、ケイトウ、夏秋なす、キクイモなど多くの推進が図られ、「土地利用型担い手の育成」や「みやこ地域の園芸産地振興」、「レタス類の安定出荷体制の確立」、「ホオズキの安定栽培」など農業振興に資する一定の成果が得られました。

本成果集では、これまでに普及活動で得られた成果をお示しするとともに、管内農業・農村の動きや普及指導員調査研究及び現地実証・展示ほの結果を掲載しておりますので、ご一読のうえ産地振興等の参考にしていただければと存じます。

普及指導センターは、今後とも農業・農村の振興のため、地域に向き皆様と一緒に考え行動してまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

平成31年3月

京築普及指導センター

センター長 山崎 崇慶

目次

はじめに.....表紙裏

1 普及活動の主な成果

みやこ地域の園芸産地振域興.....	1
土地利用型担い手の育成.....	3
直売所を拠点とした中山間地振興.....	5
契約レタス類の安定出荷体制の確立による産地の安定.....	7
キウイフルーツ「甘うい」の産地化.....	8
ホオズキ安定栽培技術の確立に向けて.....	9

2 管内の動き(トピックス)

.....10

3 普及指導員調査研究結果の概要

.....15

4 現地実証・展示ほ結果の概要

.....17

5 各種表彰の紹介(国、県)

.....18

6 参考資料

(1) 平成30年の気象及び農業生産の概要.....	19
(2) 現地活動情報一覧.....	22
(3) 普及指導センターの活動体制.....	25

1 普及活動の主な成果

みやこ地域の園芸産地振興

— 退職者をターゲットに園芸品目の栽培推進！ —

課題化の背景

(図1) みやこ地域



みやこ地域（みやこ町、行橋市、苅田町）は、豊築地域（豊前市、築上町、上毛町、吉富町）と比較して園芸品目の作付面積が少なく、また、県平均よりも農家の高齢化も進んでおり、産地縮小も予想されることから「みやこ地域の園芸産地振興」に取り組みました。

(表1) 園芸品目面積、高齢化率

	園芸品目面積	高齢化率 (福岡県58%)
みやこ地域	125ha	73%
豊築地域	195ha	70%

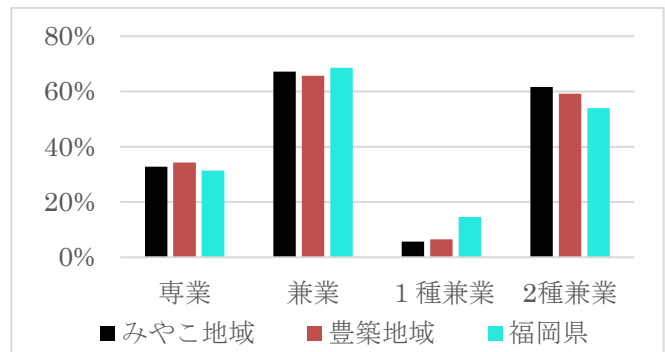
活動内容

1 園芸品目栽培者確保の取り組み

(1) プレ園芸栽培者講座の実施

みやこ町をモデル地域として、関係機関で若手の園芸栽培推進者を選出しましたが、推進対象者が少なく、面積拡大には結びつきませんでした。

このため、みやこ地域は第二種兼業農家が多いこともあり、対象者を退職者および退職予定者に変更し「プレ園芸栽培者講座」を開催した結果、多くの受講者が集まりました。また、「プレ園芸栽培者講座」後に希望者に対して、今後の園芸品目栽培について個別面談会を行いました。



(図2) 兼業農家割合 (2010年農林業センサス)



(図3) プレ園芸栽培者講座



(図4) 個別面談会

(2) みやこ町の取り組みを他市町に波及

みやこ町の退職者および退職予定者を対象としたプレ園芸栽培者講座・個別面談会の取り組みを他市町に紹介し、園芸品目栽培の取り組みを勧めました。

2 新たな園芸産地の育成

(1) 品目・品種の選定

みやこ地域の直売所を対象に栽培して欲しい品目の調査をした結果、要望が多かった秋キャベツの産地育成に取り組みました。

秋キャベツ栽培は、7月下旬から8月上旬の高温乾燥期が定植となるため、耐暑性および食味の良好な品種選定をするとともに、定植後のかん水管理を徹底しました。

(2) 「けいちく甘キャベツ」ブランドの育成

関係機関でネーミングを決めるとともに、チラシやのぼりを作成してブランド化を図りました。また、苗代の補助等、関係機関一体となって作付け推進を行いました。



(図5) けいちく甘キャベツ

■主な成果

1 園芸品目栽培者確保の取り組み

昨年度のみやこ町の受講生15名のうち、2名がJAの白ネギ部会、カリフラワー部会に加入し、9名が園芸品物の栽培技術習得のため、JA農業塾に参加することになりました。

今年度、退職者および退職予定者を対象とした「プレ園芸栽培者講座」の受講生は21名に増えました。また、みやこ町だけでなく行橋市でも実施し、更に受講生が増加しました。

(表2) プレ園芸栽培者講座受講者数

	29年度	30年度
みやこ町	15名	21名
行橋市	—	11名

2 新たな園芸産地の育成

「けいちく甘キャベツ」は、新聞やTVで取り上げられブランドとして定着するとともに、農家の努力で高温乾燥下の栽培課題を乗り越え、0aから135aまで作付面積が増加しました。

(表3) けいちく甘キャベツ作付推移

	28年度	29年度	30年度
作付面積	0a	40a	135a
栽培者数	0戸	8戸	14戸

■今後の取組み

- ・園芸品目栽培者確保の取り組みにより栽培希望者の増加が見込まれることから、基礎技術を学ぶJA農業塾の参加者が増加していくことが予想されます。このため、JA農業塾のカリキュラムの充実をJAと検討していきます。
- ・プレ園芸栽培者講座・個別面談会に取り組む市町を更に増やしていきます。
- ・ブランド化された「けいちく甘キャベツ」の産地拡大を図ります。

(園芸畜産課・野菜係)

1 普及活動の主な成果

土地利用型担い手の育成

—土地利用型担い手の経営基盤の強化を目指して—

■課題化の背景

京築地域の農業は、水田(面積:9,102ha)での水稲を中心とした大豆、麦類等の土地利用型作物を栽培する水田農業が主体となっています。また、京築地域では、農家数の減少・高齢化が顕著で、地域水田の受け皿として、集落営農組織や個別大規模経営体(土地利用型担い手)が多く、増加傾向にあります。

今後とも、農家数の減少・高齢化は続くと予想され、土地利用型担い手が、継続して地域水田の受け皿となれるように、経営基盤の強化を支援しました。

■活動内容

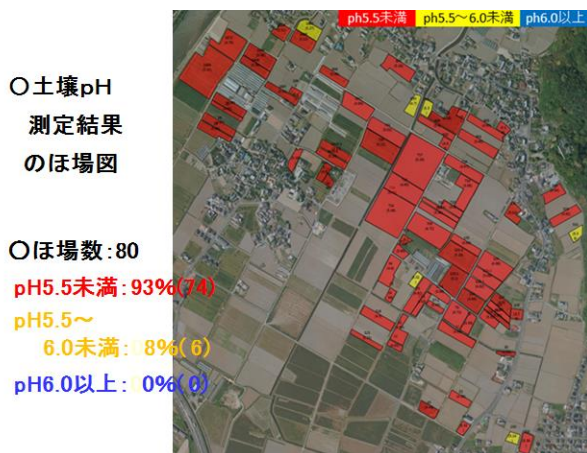
- 1 土地利用型担い手の法人化、水田集積面積拡大
 - ・法人化対象者の掘り起し、法人化の啓発、研修等を実施し、法人化対象者に対しては、協議を重ね、法人化の支援を行いました。
 - ・水田集積に伴う農地中間管理事業等の紹介、研修を実施し、担い手への経営強化、法人化の支援を行う中で水田集積を推進しました。



- 2 土地利用型担い手の麦類・大豆・飼料用米の単収向上(目標粗収益達成)
 - ・麦類・大豆・飼料用米の単収が低迷し、重点的に支援を行う必要がある土地利用型担い手を選定(3年間で15組織・15経営体)し、単収向上のためのコンサルテーションを行いました。
 - ・麦類・大豆・飼料用米の単収・粗収益目標を設定、栽培法の改善項目を明確にして重点的に支援しました。

●麦類：作付ほ場の酸度矯正【目標：180 kg/10a(2.8万円/10a)】

※作付けほ場の土壌pH測定、結果を営農地図ソフト等により可視化して提示。



土壌pH測定結果ほ場図を提示
酸度矯正について協議

●飼料用米：田植の早期化・密植化、多肥栽培等の栽培管理の徹底

【目標：488(みやこ町)~513(上毛町)kg/10a(地域単収)(8.9万円/10a)】

※田植前の協議・田植後の栽培管理指導の徹底

●大豆：適期播種【目標：120 kg/10a(4.0万円/10a)】

※適期播種実践計画表の作成

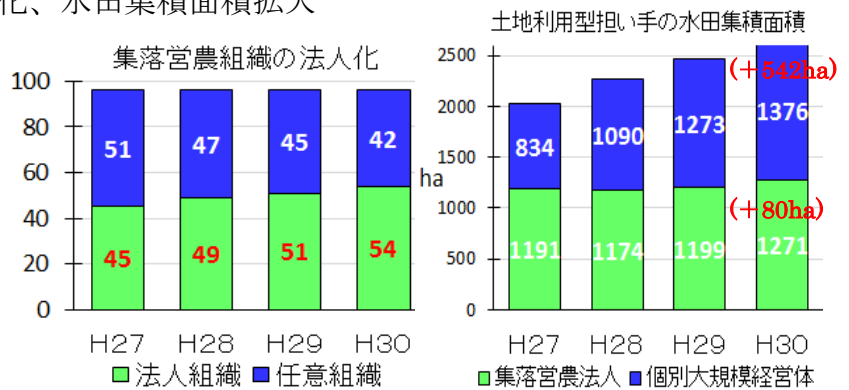


適期播種実践計画表作成について協議

■ 主な成果

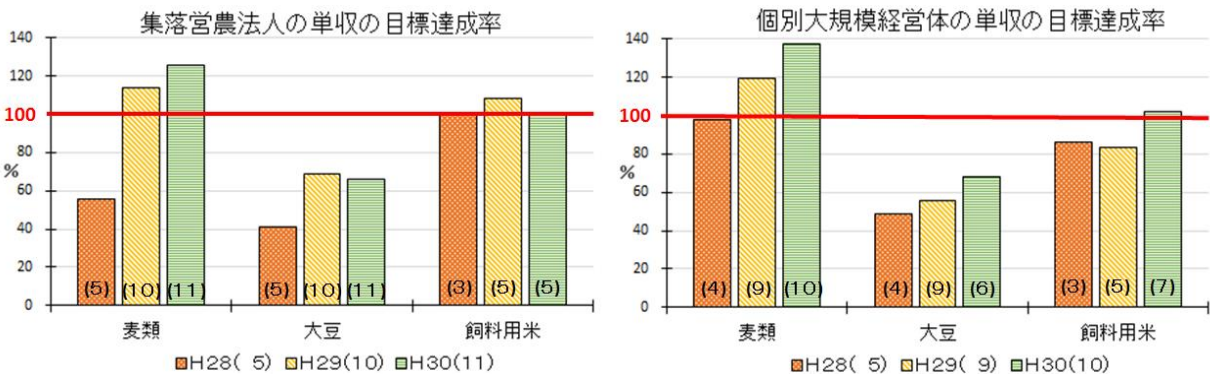
1 土地利用型担い手の法人化、水田集積面積拡大

- ・ 集落営農組織は9組織が法人化し、集落営農法人は54組織となりました。
- ・ 個別大規模経営体は5経営体が法人化し、12法人となりました。
- ・ 水田集積面積は、集落営農法人が80ha、個別大規模経営体が542ha、計622ha増加しました。



2 土地利用型担い手の麦類・大豆・飼料用米の単収向上（粗収益向上）

- ・ 集落営農組織は対象15組織のうち11組織が、個別大規模経営体は対象15経営体すべてが粗収益目標を達成しました。
- ・ 麦類・大豆・飼料用米いずれも単収は向上し、大豆は目標単収までに至りませんでした。麦類・飼料用米はほぼ目標単収に到達しました。



■ 今後の取組み

大豆の収量向上のために、適期播種に加え、難防除雑草(ホオズキ類・アサガオ類・ヒユ類・ツユクサ類)対策に取り組めます。

(地域振興課・水田農業係)

直売所を拠点とした中山間地域振興

～キクイモ生産量西日本一から全国一へ～

課題化の背景

中山間地域の農業環境は平地より不利なことが多く、そのため担い手不足や高齢化が課題として顕著です。中山間地域の農業振興は、地域農林業をビジネスとして成り立たせることが不可欠です。

また、当管内は、共販や市場出荷のほかに直売所や道の駅への出荷量も多くなっています。直売所出荷のメリットは、販売コストが安い、出荷量の制約が無いなどのほか、地域住民と地域農産物をつなぐ場としての機能も挙げられます。

そこで、直売所や道の駅を拠点とした中山間地域に適した農林産物の特産化と、それに伴うビジネスとして成り立つ仕組みづくりを行い、中山間地域の振興を図りました。

活動内容

- 1 「築上町農林業元気づくり協議会」の設立等支援
県の事業を活用し、生産者、関係機関で構成される「築上町農林業元気づくり協議会」の設立を支援しました。その後、協議会活動の拡大のため、町への事務局移管、町の農政以外の商工・企画関係部局の協議会への参画を支援しました。
- 2 地域の魅力ある農林産物の掘起し
協議会で情報を収集し、知名度は低いながらも潜在的な購買力を秘めている農林産物の掘起しを行い、「キクイモ」、「ヤーコン」、「京築ヒノキ」の特産化を図りました。
- 3 産学官と直売所の連携を支援
「キクイモ」・「ヤーコン」の機能性の証明や生産技術の確立を行うため、佐賀大学と連携し、生産技術確立や機能性表示食品に向けたエビデンス取得を図りました。
「京築ヒノキ」は、西日本工業大学と連携し、特産加工品の開発を支援しました。
- 4 キクイモ、ヤーコンの産地化推進
生産の拡大のため、生産者の募集を図りました。また、栽培技術の確立を佐賀大学と連携して行い、生産者への栽培指導を実施し、併せて種芋の供給体制を整備しました。
- 5 共販体制の整備支援とマーケティング支援
安定した出荷販売のため、直売所に集出荷体制を持たせることを提案し、整備までの支援を行いました。また、作業労働時間や原価の算出を行い、生産者、直売所両方が納得できる価格設定の支援を行いました。本価格は、製菓会社や市場との価格交渉の際にも活用され、適正な販路開拓の一助を担いました。



総会風景



キクイモ



ヤーコン



佐賀大学との調査

6 広報活動の実施

協議会が主催した「築上町きくいもシンポジウム」やモニター調査「築上町きくいも生活調査」の実施における企画立案を行い、消費者へのキクイモやヤーコンの生活消費提案を行いました。

また、新聞・テレビ等のマスメディアを活用した情報発信を行い、「築上町のキクイモ」としてPR、販路拡大を行いました。



きくいもシンポジウム

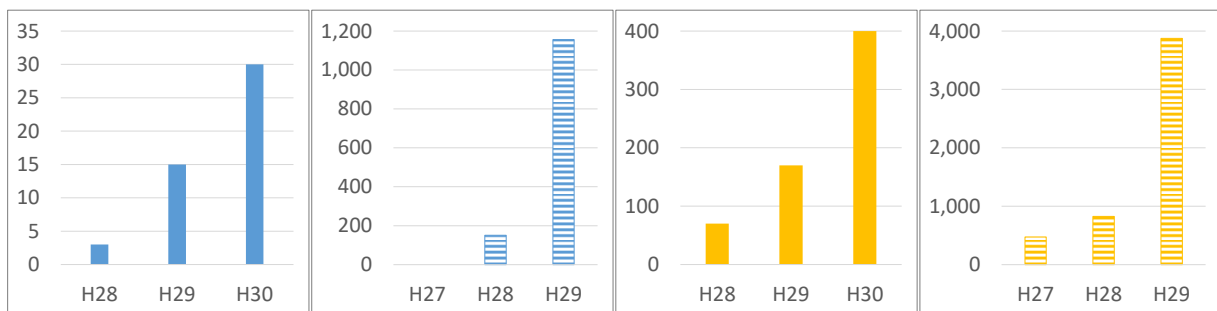
■ 主な成果

1 キクイモ生産組織の設立、集出荷加工施設の建設

いち早く生産の取組が拡大したキクイモにおいて、生産組織「築上町きくいもクラブ」（会員数25名）が設立しました。また、町と直売所が中心となった集出荷・加工施設が建設されました。

2 キクイモ、ヤーコンの生産販売の拡大

キクイモ、ヤーコンの生産面積、販売量ともに激増し、キクイモについては生産面積が70aから400aとなり西日本一の産地となりました。



ヤーコン生産面積(a)

ヤーコン販売量(kg)

キクイモ生産面積(a)

キクイモ販売量(kg)

3 特産加工品の開発

京築ヒノキを使った自転車ラック、キクイモ茶の特産品開発が行われました。



京築ヒノキを使用した自転車ラック



キクイモを使用したお茶

■ 今後の取組み

普及指導センターは、関係機関と連携し、ビジネスとして成り立つ農業経営を創造し、農業生産不利地域である中山間地域の産地振興を図ります。

(地域振興課 地域係)

1 普及活動の主な成果

契約レタス類の安定出荷体制の確立による産地の安定

—レタスの安定出荷で産地力を強化—

■課題化の背景

J A福岡京築レタス部会では、有利販売により販売金額を確保し所得安定を図るため、平成10年より大規模生産者を中心に契約出荷に取り組んでいます。しかし、近年の天候不順等の影響を受け、定植遅れや病害の発生による収量の減少、生育の遅延・前進等の課題を抱えており、安定出荷が難しくなっています。そこで、契約農家を重点的に支援し、出荷を安定させることにより、産地全体の生産技術向上と産地力強化を図りました。

■活動内容

1 安定供給体制の確立による産地の拡大

(1) 適期定植のための作付計画支援

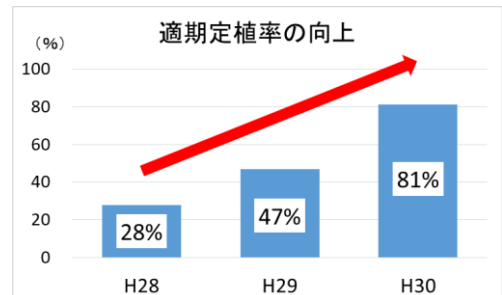
契約出荷シミュレーションによる計画的な作付けを支援するとともに、講習会等によりほ場の早期準備や適期管理を啓発しました。

(2) レタス安定生産研修会の開催

研修会では、京築管内の優良生産者の事例紹介や他県の優良産地の調査結果について報告しました。また、10年後を見据えたJ A福岡京築レタス部会の課題と産地力強化について発表し、今後の取り組みを議論しました。

2 生産技術の向上

これからの産地を担う若手生産者の技術力向上を図るため、レタス部会担い手研修会を開催しました。平成30年は2回開催し、適期管理の重要性や品質向上のための栽培管理について講習を行いました。



レタス安定生産研修会

■主な成果

1 安定供給体制の確立による産地の拡大

計画的な作付けを支援することにより平成27年に1,883aであった契約農家の面積が、平成29年には2,325aまで増加しました。

また、講習会や安定生産研修会により「ほ場の早期準備」や「適期定植」「適期防除」に対する意識が改善されたことにより適期定植率が80%を超え、安定出荷につながりました。

2 生産技術の向上

担い手研修会を通して、作業計画の作成や栽培状況・天候等に合わせた栽培管理の重要性について、生産者の理解が進みました。

■今後の取組み

普及指導センターでは、今後も産地の安定に向け、天候の変化に対応できる技術支援や人材育成を行っていきます。

(園芸畜産課 野菜係)

キウイフルーツ「甘うい」の産地化

—県内No. 1産地を目指して—

■課題化の背景

京築地域の果樹の主要な品目であるイチジクは、生産者が高齢化し、収穫期における過大な労働負担のため、栽培面積が減少しています。そこで、イチジクと労働競合の少ない品目として、キウイフルーツの県育成品種「甘うい」の産地化を推進しました。

■活動内容

1 栽培管理技術の徹底

植樹後、初年目、2年目、3年目と樹齢別に講習会を行い、基本技術の徹底を指導しました。特に、平成30年度に初出荷を迎える生産者には、高糖度、大玉果実生産のため、講習会や巡回を通じた摘蕾・摘果などの管理指導を行いました。

2 産地化の推進

新植希望者については、関係機関と連携し情報共有を行いながら、面談会や現地確認を実施し、生産者に応じた作付け計画を作成して推進しました。さらに、生産者や新植希望者を対象に決起集会を開催し、高品質果実生産者を表彰する等、生産者の意識醸成を図りました。



栽培講習会の開催



決起集会で優秀生産者を表彰

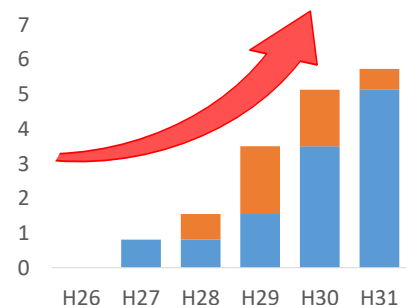
■主な成果

1 高品質な果実の生産

本年度出荷した果実は、夏季の高温乾燥による落葉があったものの、L玉以上の大玉果率は90%で、16度以上の高糖度果率は48%となりました。

2 作付面積が拡大し、産地の意識が向上

新植面積は平成30年度は163a、平成31年度は60a予定されており、総作付面積は572aになる見込みで、県内No. 1産地実現が見えてきました。



「甘うい」面積の推移

■今後の取組み

普及指導センターは、面積・果実品質ともに「甘うい」の県内No. 1産地を目指して、稲作農家への作付推進と夏季の水管理技術向上を図ります。

(園芸畜産課 果樹係)

ホオズキ安定栽培技術の確立に向けて

—京築ブランドホオズキの維持・強化—

■課題化の背景

京築地域のホオズキは、生産量、品質とも福岡県内一の産地であり、京築ブランドとして市場評価の高い品目です。

しかし、栽培地域が中山間地に限定されていたため、高齢化で担い手が確保できず作付面積は減少しています。また、白絹病の発生や着色が不安定なことも面積拡大が進まない一因となっています。

そのため、現地実証ほ等により平地での栽培も含めたホオズキ安定栽培技術確立を支援し、京築ブランドホオズキの維持・強化へ向けた取り組みを推進しました。

■活動内容

ホオズキ栽培技術の課題となっている着色対策や病害防除についての現地実証ほ設置、講習会や生産反省会においての技術実演や普及推進に取り組みました。

また、6月下旬頃に緑の実で出荷するグリーンホオズキの作付けを推進しました。グリーンホオズキは着色対策の必要がなく、比較的栽培が容易なことから平坦部においても作付拡大を図りました。



講習会で病害対策の実演

■主な成果

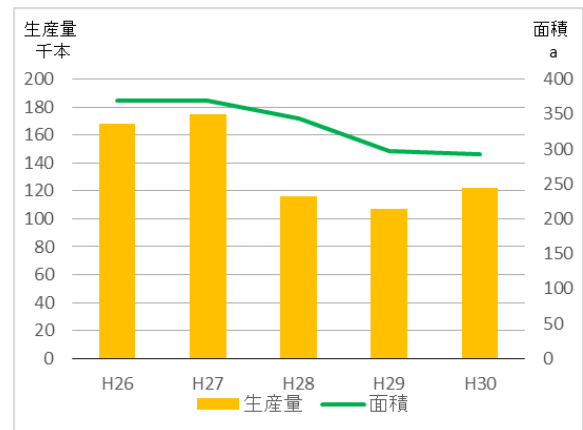
1 品質向上技術を現地実証

着色対策として、エセフォン散布前に摘心を行うことで着色が良好になることが確認され、次年度の栽培において導入を進めていきます。

また、白絹病防除については、薬剤の予防散布により発生が軽減されたので、土壌消毒の実施と組み合わせた体系防除の確立を図っていきます。

2 共販本数が拡大

ホオズキ全体の作付面積は減少しましたが、グリーンホオズキの推進や品質向上に向けた取り組みにより、平成29年度に107千本であった共販本数は平成30年度には122千本に増加しました。



ホオズキ生産量と作付面積の推移

■今後の取組み

京築ホオズキの維持・強化に向けて、着色対策や病害防除技術を確立し、普及を図るとともに、定植作業の省力化や収穫調整労力の確保について支援していきます。

(園芸畜産課・花き畜産係)

全国果樹技術・経営コンクールで農林水産大臣賞を受賞

第20回全国果樹技術・経営コンクールにおいて、みやこ町の有限会社松木果樹園が落葉果樹部門で農林水産大臣賞を受賞しました。

松木果樹園は、ナシ、モモ等9品目40品種の落葉果樹主体の果樹園と観光農園および農家レストランを運営しています。

コンクールでは、中山間地域であるみやこ町犀川地区で、樹上完熟にこだわる果実生産を行いながら、経営の多角化にいち早く取り組み、観光農園、直売所、農家レストランを通じて農業の魅力を発信し、地域農業の振興に大きく貢献するとともに、明日の農業を担う担い手の育成に積極的に取り組む姿勢が高く評価されました。

これからも、普及指導センターでは、生産、加工、販売まで包括した支援に努めていきます。



表彰式の様子
於:東京都 メルパルク東京

全国優良経営体表彰で株式会社ユーアスが表彰される

平成30年度全国優良経営体表彰の農業経営部門で、上毛町の株式会社ユーアスが全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞しました。

この表彰は、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農業者を表彰するものです。

株式会社ユーアスは、土地利用型作物と露地野菜を組み合わせた46haの経営面積で、営農管理システムやドローンなど最新の技術を活用した効率的な生産や、従業員が働きやすい雇用環境の整備など、福岡県を代表する農業経営を実現している点が高く評価され、今回の受賞となりました。

普及指導センターは、今後も地域農業の発展に向け、農業経営の改善支援を一層進めていきます。



表彰式の様子
於:山形県山形国際交流プラザ



左から熊谷道久氏、農水省上田参事官、熊谷由美子氏

2 管内の動き(トピックス)

管内でGAP認証の取得が進む

近年、農業生産において、農産物安全・環境保全・労働安全を確保し持続可能な農業生産を行うための取組であるGAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）の実践が求められています。

GAPはPDCAサイクル（P：計画、D：実行、C：点検、A：改善）を通じて自身の農業経営を改善する取組です。また、GAPを実践していることを第三者が認証する制度（GLOBALG. A. P. や ASIAGAP、JGAP、福岡県GAP認証制度など）が設けられており、京築地域でもこれらの認証を取得する生産者が増えています。

本年は、みやこ町の黒瀬泰秀氏が ASIAGAP 認証（品目：米、福岡県で初）、上毛町の（株）ユーアスが JGAP 認証（品目：キャベツ）、豊前市の（株）瑞穂が福岡県GAP認証制度（品目：ゴボウ）を取得しました。

普及指導センターは、今後もGAPの実践を支援していきます。



県GAP認証審査の様子

新規就農バスツアー開催

11月11日（日）、京築地域の就農希望者を対象に、管内の農家を巡るバスツアーを開催したところ、北九州市で開催した就農相談会参加者等4名が参加しました。

当日は、就農研修施設、果樹農家、イチゴ農家の3か所を視察した後、個別就農相談を行いました。参加者は、それぞれの視察先で、就農支援制度や栽培技術等について積極的に質問し、先輩農家からのアドバイスを受けていました。

バスツアーの感想では、「農業現場の視察や農家の話を直接聞いて勉強になった」、「機会があったらまた参加したい」と次回の開催を求める声が上がりました。地域農業の担い手確保・育成のための取り組みを今後も続けていきます。



イチゴ農家の視察



果樹農家の視察

幻の柿「川底」を干し柿へ

「川底」は、豊築地区を中心に400年以上前より栽培されている伝統ある渋柿です。特に天日で乾燥した干し柿は非常に甘く、地域住民に愛される特産品となっています。しかし、「川底」の干し柿加工時期は、カキの他品種の収穫と重なることによる労力競合、さらに、その時期の気温が高く雨が多いことによるカビ発生のため商品果率が低いことなどの理由により加工量が限られていました。

そこで、11月に収穫した「川底」を冷蔵貯蔵し、他品種の収穫が一段落する気温の低い12月以降に加工することで、安定した干し柿生産が可能となりました。本年度は上毛町のカキ生産者を中心に先進地視察、共同干し柿加工等を実施し、大平干し柿として試験販売を行いました。

普及指導センターでは、干し柿などの加工品生産を支援し、地域特産品の定着と拡大を図っていきます。



生産者共同の干し柿加工



「川底」の干し柿を販売

新田原果樹部会果樹サポート部の活動、イチゴ部会にも広がる

行橋市の新田原果樹部会果樹サポート部は、生産者の高齢化が進む産地の維持を目的に、平成28年に発足しました。これまで、イチジク、モモ、ナシのせん定受託の他、上毛町でのユズ収穫の作業受託を行ってきました。

今年は、生産者が高齢となり、栽培ができなくなったイチジク園10aを利用権設定で借り受け、管内で面積拡大しているキウイフルーツ「甘うい」の花粉確保のため、雄樹園として整備するなど、管内の果樹産地を支える取り組みを行いました。

さらに、イチゴ部会から、ハウスのビニール張りの依頼がありました。ビニール被覆は遅れると、収量が減るので、適期作業を行う必要があります。そこで、イチゴ部会と連携し、イチゴハウス14aで試験的にハウスビニール張りを行いました。ハウスビニールを張ったことのある部会員も多く、比較的スムーズに行えました。この活動は、イチゴ部会員にも好評で、来年はさらに広がることを期待されています。

普及指導センターは、部会の垣根を越え、産地維持・発展のため、支援を続けていきます。



ハウスビニール張りの様子

2 管内の動き(トピックス)

イチジク株元加温技術に挑む

ハウスイチジク研究会の廣津宏一会長は、加温イチジク栽培で、株元加温に取り組みました。きっかけは、昨年12月に福岡県農林業総合試験場野菜部での視察研修で学んだナスの株元ダクト加温でした。

そこで、ナスを参考に、主幹部から主枝分岐周辺にトンネルを設置し、その中にダクトを通して株元加温を行いました。

結果は、2月の気温が昨年比べて低温に推移したにも関わらず、燃料消費量は昨年とほぼ同じで、出荷も1週間早まり、収量は5.4%ほど増加しました。他の生産者の関心が高まり、来年は新たに一名が取り組むことになりました。

普及指導センターは、生産者の挑戦的な取り組みに対しても、全力で支援を続けていきます。



株元加温の状況

土壌改良によるイチジク「蓬萊柿」の収量向上

京築普及センターのイチジク「蓬萊柿」は、老木化による樹勢低下が進み、小玉化や収量の低下、夏期の高温による障害果の多発が問題となっています。

そこで、樹齢30年を超え、老木化が進んでいる園で、生産者、農協と連携し、2年がかりで、客土、堆肥施用、明渠の再整備などの土壌改良を行いました。

今年の生産は、土壌改良を行う前の28年度と比べて、収穫期間は約1か月延び、収量、秀品率、L玉以上の大玉果率がすべて約2倍となり、販売高は約3倍となりました。

その結果をイチジク連絡協議会の出荷反省会で報告したところ、生産者の強い関心を引きっていました。

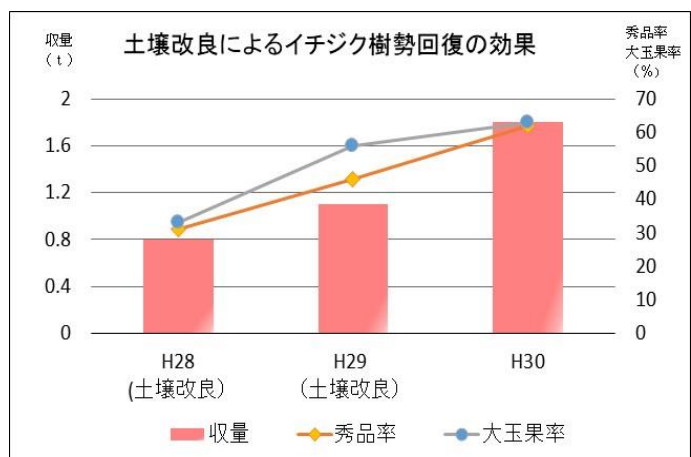
これからも、普及指導センターは、生産指導を続け、産地の維持発展を支えます。

イチジク収穫期間が拡大

年度	8月	9月	10月
28年度	← 8月16日～10月5日 →		
29年度	← 8月16日～10月11日 →		
30年度	← 8月16日～10月31日 →		



明渠の設置



JA農業祭で野菜栽培を推進

平成30年11月3日の「JA収穫感謝祭 in みやこ」を皮切りに、3週連続で地域を変えて開催されたJA福岡京築主催の収穫感謝祭で、園芸品目の生産拡大を図るための栽培講習会を開催しました。

3日間で約30名の参加があり、それぞれの栽培講習会では、推進品目の説明や栽培上の疑問点に対する回答を行いました。併せてJAが行う部会員向けの助成事業や部会活動の内容、各品目の収益性や作業内容について説明を行いました。

講習会終了後、6名の方が作付けの検討、あるいは各部会への加入を申し込みました。

今後も各部会の活動周知も含め各園芸品目産地の維持拡大に向けた取り組みを行っていきます。



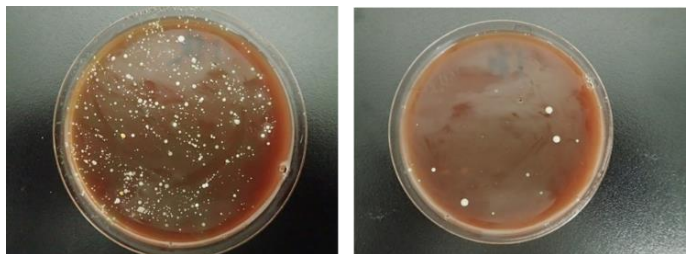
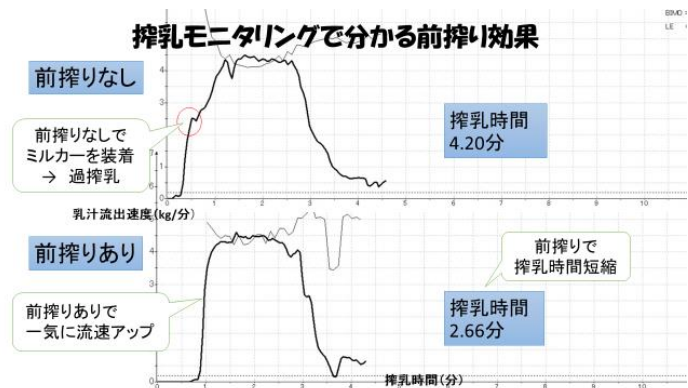
J A収穫感謝祭 in 築上での栽培講習会

搾乳の「見える化」で乳質改善

酪農家には高品質な生乳の生産が求められており、良質な生乳生産には適正な搾乳手順が欠かせません。そこで、適切な前搾りを行うことによって、搾乳がどのように改善できるのか、ラクトコーダー（搾乳時に牛乳の流れる速度や電気伝導度をデータ化し、適正な搾乳が行われているかを検証できる機器）を使って搾乳をモニタリングしました。

酪農家で前搾りをしない搾乳をしてもらい、次の日に同じ牛を使って前搾りをする搾乳を行ってもらいました。同じ牛の泌乳曲線をグラフで比較すると、前搾りをしない場合、搾乳直後に過搾乳の状態となっていました。前搾りを行うことで過搾乳が改善し、搾乳時間が短縮しました。また、前搾りの乳汁中には細菌が多く含まれており、前搾り後の乳汁中では激減することが再確認できました。

搾乳の「見える化」で、酪農家に正しい前搾りの重要性を再認識してもらい、今後の乳質改善の取り組みにつなげていきます。



前搾りと前搾り後の乳汁中の細菌

課題名	結果の概要	部門	担当者
「京築産」が甘ういのコンセプトとなりうるエリアについて	福岡、北九州、京築の店舗で、「甘うい」を実際に販売し「京築産」というコンセプトが消費者の購入行動にどのような影響を及ぼすかを調べた。購入時に「京築産」を理由に挙げる消費者数は、北九州より京築が多く、福岡では0であった。	地域	手嶋
新規参入者の安定経営に役立つ直売所出荷についての提案方法の検討	「直売所が欲しい作物調査」から、直売所出荷が少なくもっと出荷して欲しい作物と、出荷が多く売りにくい作物とその時期が判った。初心者でも安定して収穫できる作物や地域で推進している作物を考慮し、直売所で有利に売れる作物と作型を検討し、それらを組み合わせた経営類型を作成し、新規参入者に提案できるようにした。	地域	清田
果樹作業受託組織の体制構築について	J A果樹部会員の高齢化や担い手不足で産地規模が縮小しており、果樹産地維持対策のために作業受託組織を立ち上げた。今後の受託組織活動を充実させるため、部会員を対象に今後の経営計画に関するアンケート調査をした。	地域	吉田
集落営農組織における広域連携の具体的な実践手法の検討	他県の事例をもとに具体的な実践手法の検討した結果、集落営農組織間の連携の中には、「農地」・「機械」・「会計」・「人材」の項目をどのように共有していくかが課題となる。また、統合組織や別組織の設立の有無により、体制や地域の自主性の程度が異なる。	地域	瓜生
大豆の収量向上に向けた難防除雑草除草体系の検討	大豆低収の主要因となっている難防除雑草の除草体系の検討を行った結果、以下の体系が最も除草効果が高かった。 ○ホオズキ類（ヒロハフウリンホオズキ） 初期除草剤 → <u>レーキ式除草</u> → 中期除草剤(大豆バサラン液剤) → 中耕培土 ○ヒユ類（ホソアオゲイトウ） 初期除草剤 (<u>フルミオWDG加用</u>) → 中耕培土 ○アサガオ類（マメアサガオ） 初期除草剤 → 中耕培土 → <u>中期除草剤（パスタ液剤畦間処理）</u> ※ホオズキ類、ヒユ類については、上記の体系終了後、9月に入ると再発生し始め、特に、まくら地等、欠株等で空間が空いているところを中心に大きくなり残存するので、次年度以降の発生抑制のため、これらを種子が出来る前、早めに(9月中旬)手取り除草を行う事が重要。	水田	大森 福山
集落営農組織における法人化後の支援方法の検討	法人化後の実態を把握し、後継者育成支援策や経営安定化に向けた支援内容を検討した結果、任意組織の運営と何ら変化がなく、機械の更新があれば経営を圧迫し、その年の収穫量で収益の増減が大きいことが分かった。後継者についてもボランティア的な報酬のため、なり手がいない状況が明らかとなった。	水田	今池
白ネギ栽培における、施肥量減による高温期の枯死株対策の検討	4月下旬定植10月下旬収穫の作型では、7月下旬から8月中旬の高温期に枯死株が多発する。元肥を減らすことで高温期までの生育を抑えた結果、枯死株率は14%から2%に改善された。	野菜	川原
いちご「あまおう」のアイポット育苗における多芽発生要因の検討	アイポットによる育苗において、施肥状況の差によって多芽の発生量に差が出るか検証した。 無肥料期間が長ければ多芽の発生が多くなることが判明した。	野菜	濱野
いちご「あまおう」のアイポット育苗における多芽抑制施肥法の検討	アイポット育苗において、コーティング肥料を用いた肥料を用いた多芽の発生につながるか検証した。	野菜	竹本

課題名	結果の概要	部門	担当者
露地なす IPM 利用における温存植物マリーゴールドの植栽密度の検討	土着天敵ヒメハナカメムシの温存効果が高いマリーゴールドの必要な植栽密度を調査した。マリーゴールド1株当たり11m ² 程度を網羅することができた。また、植栽密度だけでなく、いかに早くマリーゴールドの株を充実させるかが、天敵の温存には重要であることが分かった。	野菜	山内
イチジク「蓬莱柿」の露地栽培における土壌改良と加温栽培における株元加温の効果	露地栽培の樹勢低下園で、総合的に土壌改良を行うことで樹勢回復ができ、出荷量が増え、大玉果になるだけでなく、秀品率も向上する。加温栽培で、株元を被覆しその中にダクトを通すことで、株元部分の温度を高く保つことができ、生育が早まり出荷量が増える	果樹	野方
ホオズキにおけるセル成型苗育成技術の研究	セルトレーへの挿し木前までの保存方法およびセルトレーの種類、挿し木時期について検討した。 地下茎の保存方法について、10℃の冷蔵庫で保存した時の入庫期間は、新聞紙で包んだ場合で約10週間、ビニール袋のみでは約5週間が適当であると考えられた。	花き	兼近
ホオズキ品質向上に関する研究	土壌が乾燥していた4月中旬に株元にかん水をすることで、草丈の伸長が促進された。また、薬剤の予防的施用を4月下旬、5月下旬の計2回実施したところ、慣行区と比較して発生箇所数は少なかった。摘心を行った試験区の株は慣行区に比べて、ほとんどの着果節位で着色が良好であった。残された課題を改善して、品質向上へ向けた技術の確立を図っていく。	花き	堂脇
乳牛の周産期における栄養管理の実態調査	乾乳期～分娩後の飼養管理が、周産期疾病の発生と乳量へ及ぼす影響を検討する。	畜産	福原

4 現地実証・展示ほ結果の概要

品目	課題名	結果の概要	設置場所
大豆	大豆の難防除雑草対策試験	ホオズキ科雑草が蔓延するほ場での雑草防除体系を検討したところ、新規の中期除草剤や万能散布バーによる非選択性除草剤の畦間散布を組み合わせで防除した区が最も有効であった。	築上町
飼料用米	夢あおばとミズホチカラの品種比較試験	飼料用米の品種について、「ミズホチカラ」と「夢あおば」を比較したところ、収量は「ミズホチカラ」が優れたが、収益性では「夢あおば」が優れた。	築上町
いちご	いちごのアイポットにおける育苗期間の違いによる多芽発生の状況調査	採苗時期及び採苗ステージの違いによる多芽発生の状況を調査した。育苗期間が長いほど、多芽の発生率は高かった。また、1次苗（太郎苗）より、2次苗（次郎苗）の方が多芽の発生は少なかった。	みやこ町
いちご	いちごの育苗期における発根促進剤を活用した根痛み対策	いちごの普通ポット育苗期に10日置き3回、根っこりん200倍液を散布した。結果、重量比較で、苗重量（乾物重）で約20%増加し、根重量（乾物重）で5%増加した。	行橋市 豊前市
キウイフルーツ	機械を導入したキウイフルーツ園地の土壌理化学性改善の軽労化の検討	機械（ハンマードリル）を活用すると、手堀と同等以上の深さまで掘ることができた。さらに、手堀の場合と比較して、1樹当たりの穴掘時間は約54%、心拍数増加率は約16%縮減できる。	行橋市
カキ	渋柿「川底」の干し柿の外観・品質向上に向けた加工技術の確立について	果実の消毒法の違い（硫黄燻蒸と熱湯消毒）では、果実品質に大きな差は見られなかった。一方、皮むき後の柿もみ処理・粉だし処理を行うことで、干し柿の果実外観が飛躍的に向上した。	上毛町
ホオズキ	ホオズキ着色向上対策	葉面散布肥料メリット赤300倍液を、エスレル散布前16日から5日毎に3回散布することで、着色促進効果が認められた。	みやこ町
ホオズキ	グリーンホオズキ出荷期拡大技術の検討	6月下旬に出荷期となるグリーンホオズキについて、定植時期、芽出し時期をずらすことで7月中旬まで出荷時期を拡大出来ることが実証された。	豊前市
ケイトウ	定植省力化資機材を活用した定植技術の検討	定植省力化資機材「チェーンポット」「ひっぱりくん」を活用することによる定植省力効果を確認できた。また、生育、品質面においても手植え栽培と大差なかった。	築上町
ケイトウ	ケイトウ優良品種比較試験	現行主力品種の「麗炎」を対象品種として、「サカタプライド」および「アスカ」を優良品種として選定した。今後の品種導入については、部会で検討していく。	みやこ町 築上町 吉富町
酪農	搾乳時の前搾りの有無が搾乳に及ぼす影響	前搾りを行うことでミルクー装着直後の過搾乳の状態が改善され、搾乳時間が短縮した。	行橋市 みやこ町

平成31年2月末時点

5 各種表彰の紹介(国、県)

(平成 30 年度)

表彰事業名・受賞名	受賞者氏名・組織名	市町名
全国果樹技術・経営コンクール 農林水産大臣賞	有限会社松木果樹園	みやこ町
全国優良経営体表彰 全国担い手育成総合支援協議会長賞	株式会社ユーアス	上毛町
地産地消等優良活動表彰【生産部門】 九州農政局長賞	築上町有機液肥利用者 協議会	築上町
福岡県農業指導功労者表彰	松木 実	みやこ町
福岡県麦作共励会 集団の部 優良賞	農事組合法人 上田営農組合	みやこ町
福岡県大豆作経営改善共進会 集団の部 優良賞	徳政地区営農集団組合	みやこ町
福岡県花き品評会 福岡花卉農業協同組合長賞	谷田 美智子	みやこ町

(敬称略)

※ 平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月の期間の表彰事業において表彰を受けた個人及び組織

(1) 平成30年の気象及び農業生産の概要

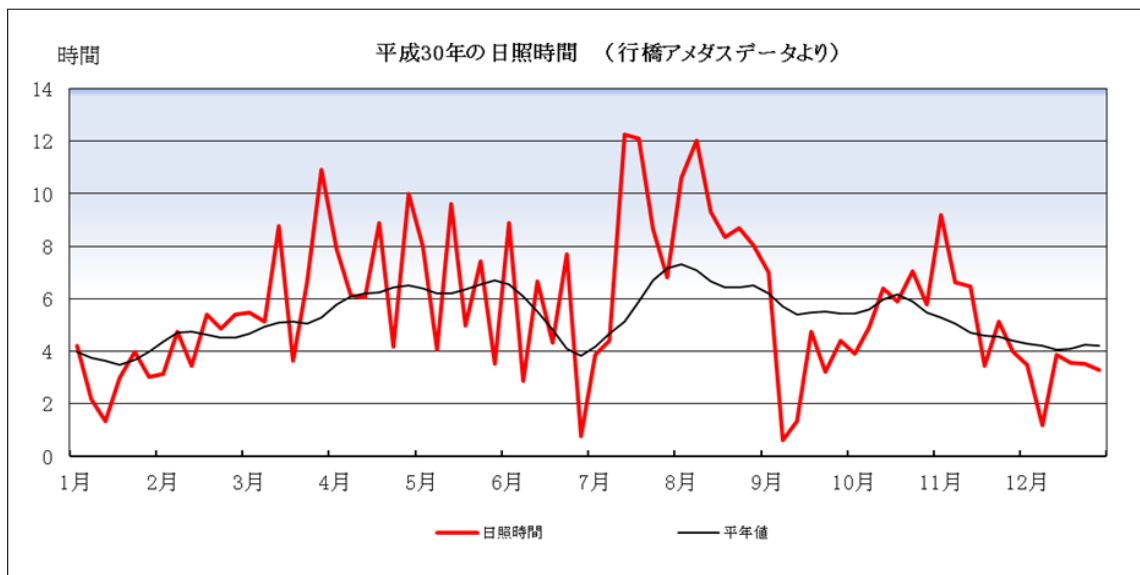
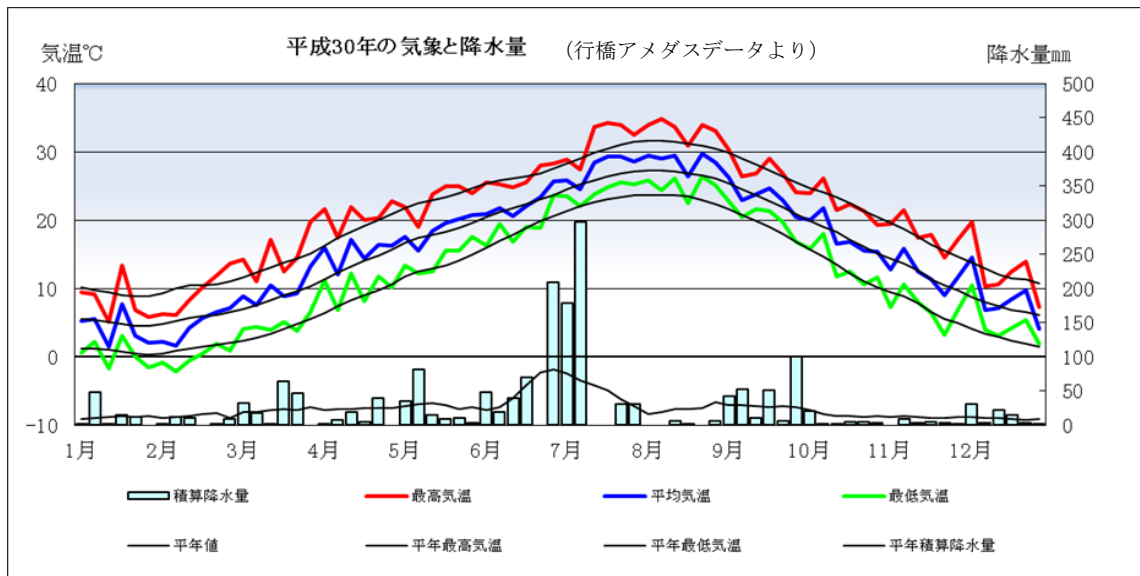
■ 気象概況

年末から低温傾向が続き久しぶりの厳冬となった。特に1月下旬から2月上旬にかけては連日して降雪があり、積雪した日も多かった。2月28日～3月1日にかけては、低気圧通過に伴う強風が吹き、施設ビニルやトンネル被覆に被害が発生した。

3月に入ると一転して高温傾向となり4月下旬まで続いた。5月上旬に一時的に低温となり落雷や降雹が観測された。その後7月上旬の梅雨明けまでは平年並みの気温で推移した。降水量は3月下旬から4月上中旬までは少なく推移した後、5月上旬にまとまった降雨があった。梅雨入りは5月28日頃で平年より8日早かった。7月5日から6日にかけては西日本豪雨に伴う大雨となり、昨年に引き続き大雨特別警報が発表された。7月6日に行橋市で日最高雨量292mmを記録した。

7月9日の梅雨明け後から8月にかけては記録的な猛暑となり激しく乾燥した。7月29日に迷走台風12号が豊前市に上陸し強風となった。その後、8月から10月にかけて台風15号、21号、25号が接近、台風25号は行橋市で最大瞬間風速20.1mを記録した。台風の影響で9月から10月上旬にかけては降水量が多くなり、その後11月にかけては少雨傾向で推移した。

9月以降の気温は平年並みで推移した後、11月中下旬から12月にかけては暖かい日が続き暖冬傾向となった。



■ 主な品目の生産概要

普通作

○ 水稲

早期水稲の移植は5月12日頃がピークとなった。移植後から梅雨入り(6/5)まで高温多日照となり生育は順調であった。梅雨入り後も、集中豪雨の影響で降水量が多くなったが、気温は高く推移し出穂が早まった。梅雨明け(7/9)は平年より10日早く、その後、高温多日照で推移し、成熟期も早まり、収量は確保されたが登熟期の高温で乳白等が多く品質は低下した。

普通期水稲の移植は5月27日頃がピークとなった。梅雨入り後は降雨が多くやや軟弱徒長気味の生育となり、中干しも不十分となった。梅雨明け後は、高温多日照となり生育は回復、出穂・成熟期は早まった。主力品種の夢つくしについては、出穂以降も天候が安定したため収量は良好であったが、登熟期の高温により乳白等が多く発生し、品質の低下が目立った。元気づくし以降の品種では、登熟期間の日照不足により品質が低下した。

○ 麦(平成30年産)

播種は11月上旬から始まり、その後の降雨が少なかったため、ピークは11月中下旬となった。

播種後、冬期は平年に比べ低温で推移し、また、断続的な降雨により、麦踏みや土入れなどの中間管理が不十分で茎数が少なく生育量不足となり、全体的に葉色が淡く推移した。しかし春期(3月以降)は平年に比べ高温で推移したため生育は回復し、生育量も確保され、出穂平年比で2～3日の遅れまで回復し、成熟期は平年並みとなった。また、4月下旬から5月上旬の大雨や強風により、一部の生育旺盛な大麦ほ場で倒伏が発生した。

大麦、小麦品種共に前年産の単収を上回ったものの、県平均と比較して低収となった。この要因として、3月以降の生育回復により穂数、粒数は確保できたが、4月から5月にかけての高温で充実がやや劣ったためと考えられる。品質に関しては、赤かび病の発生もなく、外観品質は良好であった。

○ 大豆

播種は、適期の7/20までに90%済(去年は70%)、残り10%も7月末までに終了した。播種後、8月末まで、猛暑で降雨もほとんどなかったため、ほ場の乾燥により、全体的に出芽・苗立ちが悪く、一部播き直しも行われた。また、出芽後の生育も、大豆の葉のしおれ等、全体的に生育が抑制され、一部枯死も発生した。それでも、開花期は、本年の播種ピークの7月15日頃播種で、8月23日頃となり、ほぼ平年並みになった。

開花後の9月以降は、一転して、降雨が多く、日照不足となり、気温は平年並みで経過し、台風等による倒伏の発生はほぼ無いものの、ハスモンヨトウ・カメムシ類の発生・被害が多く、後発の雑草の発生も多く、登熟に悪影響を及ぼし、成熟期は平年並みとなったが、昨年・平年に比べ低収となった。

野菜

○ イチゴ

育苗期は、3、4月に適度に降雨が続き、ランナー発生が早く苗の切り離しは順調に進んだ。一部で、8月の高温により根腐れが発生した。9月の定植から年内まで気温は高めに推移し、年内の出荷は増加した。

○ レタス・ブロッコリー

9月中旬以降、好天が続き定植は順調に進んだ。その後、年内まで気温は高めに推移し、定植後の生育は順調で、年内の出荷は増加した。12月は降雨が多く、レタスでは腐敗病が多発した。ブロッコリーは、10月～11月の乾燥によりハウ素欠乏が多発した。害虫については、比較的少ない状況であった。

○ スイートコーン

定植は好天が続き順調に進んだ。1・2型は、4月上旬～中旬の高温乾燥による副房発生や4月下旬以降の低温により小ぶりの収穫となった。3型以降は天候に恵まれ大振りな収穫となった。害虫は、5月中旬以降にアブラムシ類が多発し、クレームが発生した。

6 参考資料

果樹

○ イチジク

「蓬莱柿」、「とよみつひめ」とも、発芽は昨年より7日早かった。梅雨明け～8月下旬の高温・乾燥のため、小玉傾向で、高温障害果も発生した。9月上・中旬は降雨のため、一部の園でシヨウジョウバエの発生もあり果実品質が低下した。最終的に出荷量は昨年より少なかった。

○ モモ

満開期は昨年より6～7日早く、開花期間は平年並みで、着果は良好であった。果実品質は概ね良好であったが、中生品種で果肉褐変症が一部の園で発生した。せん孔細菌病、ハモグリガの発生は平年並みで、一部で若木の枯死症が発生した。

○ キウイフルーツ

満開期は5月4～5日で、開花期間は比較的天候に恵まれたこともあり着果良好で、果実肥大も良好であった。梅雨明け～8月下旬の高温・乾燥のため、日焼け果の発生が多く、落葉が激しい園では、果実糖度が低かった。

○ ナシ

満開日は幸水4/5、豊水4/3で平年より5日ほど早くなった。果実品質は概ね良好であったが、夏季の高温・乾燥のため、一部日焼けが発生し、灌水量が不足した園では小玉傾向（幸水、豊水）となった。

○ ユズ

平成30年は表年となり、昨年と比較して着果量は大幅に増加した。夏季の乾燥によりやや小玉傾向であったものの、品質は良好であった。

○ カキ

富有の展葉期は4/1と昨年より5日早く、発芽・着果ともに良好であった。夏季の高温乾燥により、落葉・日焼けが発生し、全体的に小玉傾向となった。

○ 中晩柑

中晩柑（はるみ）開花期は5/14と昨年より6日早かった。着果量は全体的にやや多く、昨年より高糖・低酸となった。

花き

○ ホオズキ

3月の芽出しから順調に進み、5～6月に適度な降雨があったことから草丈は十分確保された。また、白絹病や斑点細菌病等の病害発生も少なかったが、生育後半にハダニの被害が多発した。着色処理時期は異常高温となったものの着色は比較的良好であった

○ キク

5月上旬に降雨があり、梅雨時期も適度な雨量があったことから草丈の伸びは良かった。花芽分化期は平年並であったが、梅雨明け後の猛暑、乾燥により花芽発達が抑制され開花が遅れた。白さび病の発生は少なかったが、梅雨明け後にオオタバコガが多発した。

○ ケイトウ

5月下旬～6月上旬の定植後順調に生育し、十分な草丈を確保出来た。ヤガ類の発生は少なかったが、黒斑病が多発した圃場が一部で確認された。

○ シンテツポウユリ

4月上中旬定植分は7月下旬からの出荷となった。本年は、良質苗を確保できず、その後の栽培に大きく影響した。次年度に向けて、苗の安定供給体制の確立が課題となった。

畜産

○ 酪農

酷暑の影響で熱射病による死亡頭数が増加し、生乳生産量は前年よりやや減産した。

○ 自給飼料

8月まで酷暑で降雨もほとんどなかったため、飼料稲の生育が抑制されていたが、9月以降の降雨で生育が回復し、収穫が順調に進んだ。

(2) 現地活動情報一覧

NO	情報テーマ	作成月日
1	犀川花卉部会総会が開催されました	4月10日
2	みやこ町新規就農研修入校式開催	4月13日
3	ハウスいちじく「蓬莱柿」の株元加温に挑む	4月13日
4	キウイフルーツ「甘うい」初出荷に向けて	4月13日
5	行橋市で菜の花まつりが開催	4月19日
6	いちじく「蓬莱柿」安定生産に向けて	4月20日
7	J A福岡京築新田原果樹部会総会開催される	4月20日
8	みやこ実年農業者クラブ総会・研修会の開催	4月24日
9	めざせ！農作業事故ゼロ	4月26日
10	ハウスいちじくのけん引者交代	4月26日
11	キウイフルーツ講習会「甘うい」初出荷に向けてⅡ	4月26日
12	夏秋なすの増収を目指して	5月7日
13	J A京築花き部会総会を開催！	5月10日
14	大平柿研究会総会が開催される	5月15日
15	いちじくパッケージセンター説明会開催	5月15日
16	加温ハウス「蓬莱柿」夏果本格出荷開始	5月15日
17	キウイフルーツ花粉自家採集	5月23日
18	果樹専技を迎え、キウイフルーツ「甘うい」摘果講習会を開催	5月23日
19	経営安定をめざし収入保険制度を学ぶ	5月31日
20	ケイトウ定植省力化のための移植機実演会を開催！	6月6日
21	ハウスいちじく「蓬莱柿」出荷協議会開催	6月7日
22	夏秋なすの生産意欲と産地を盛り上げる！	6月11日

6 参考資料

NO	情報テーマ	作成月日
23	甘さ最高・おいしさ抜群のスイートコーンをお届けします！	6月18日
24	行橋市 新田原地区でモモの出荷協議会を開催	6月21日
25	直売所の消費者ニーズに即した農産物の生産を支援!!	6月26日
26	高校生が農業の将来を語る	7月5日
27	目指せ！県内一、日本一の産地	7月5日
28	ケイトウ出荷会議を開催！	7月10日
29	今年こそ大豆多収！	7月10日
30	新規就農者の早期経営確立を支援します	7月23日
31	気象変動に負けないブロッコリー生産を目指して	7月24日
32	京築のアスパラガスはこれから！！	7月26日
33	京築特産ホオズキの出荷が始まりました	7月26日
34	みやこ町認定農業者の会総会開催	7月27日
35	直売所の安全・安心な農産物の充実化を目指して！	7月27日
36	今年こそ大豆多収！Part2	8月3日
37	いちじく「蓬莱柿」出荷いよいよ始まります！	8月10日
38	京築地域農産物直売所お買い物バスツアー	8月10日
39	直売所食品衛生・食品表示研修会開催	8月21日
40	京築地域での就農を応援します！	9月10日
41	ビューティフルーツフェスティバル開催	9月10日
42	徳島県ケイトウ先進地視察研修を実施！	9月25日
43	「みやこ町集落営農組織連絡協議会」設立総会開催	9月21日
44	夏秋なすの生産意欲を高めるために	9月27日
45	京築地域農産物直売所お買い物バスツアー 2	10月4日

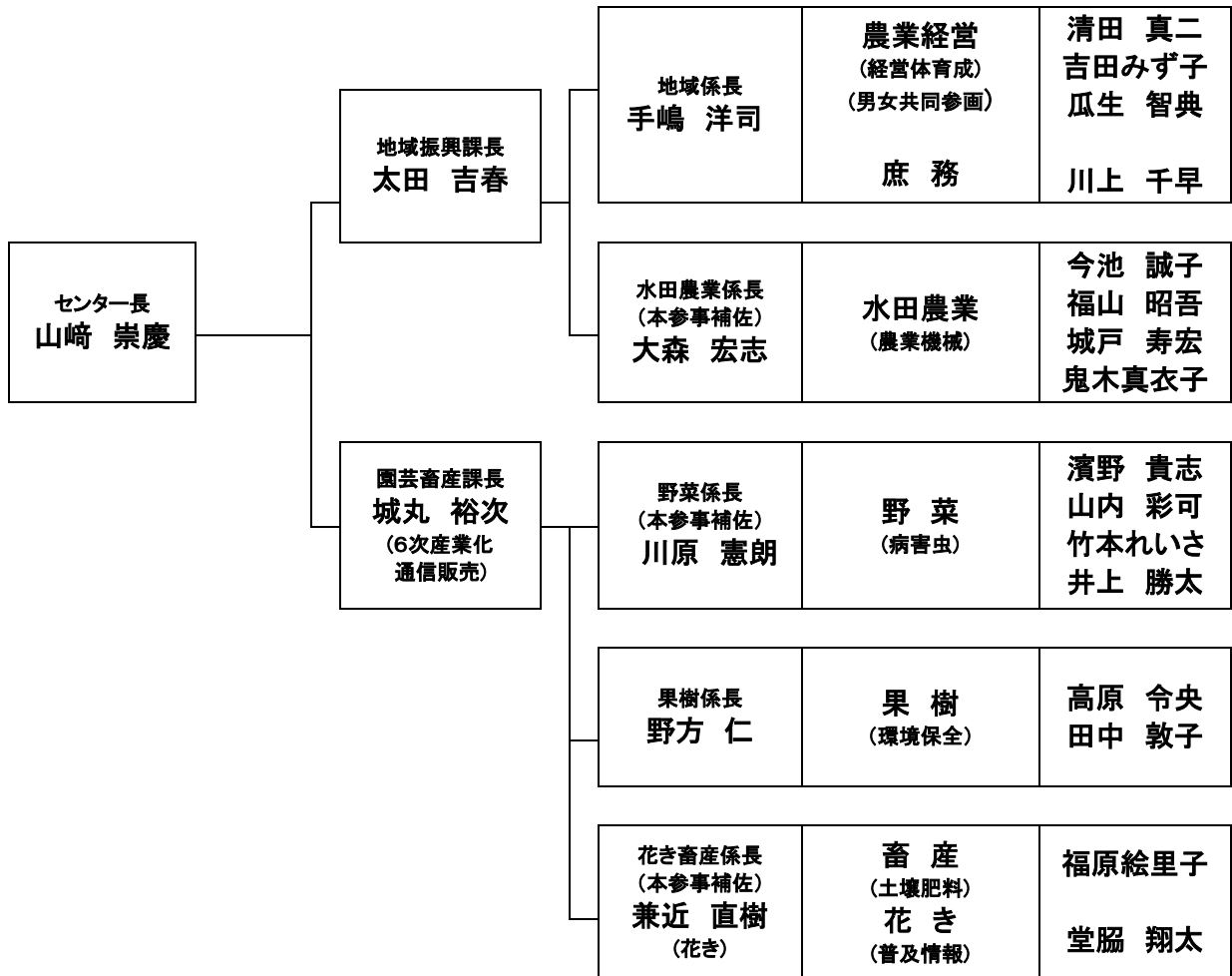
NO	情報テーマ	作成月日
46	キウイフルーツ「甘うい」、京築で初出荷！	10月25日
47	麦の収量・品質向上を目指して！	10月26日
48	けいちく甘キャベツ出荷始まる！	10月30日
49	きくいもクラブが設立	11月13日
50	京築地域での就農を応援します～新規バスツアー～	11月16日
51	けいちくチャリ散歩ルートマップ（仮称）試走会開催	11月19日
52	生涯現役！集落営農組織の維持発展に向けて～行橋市営農組織連絡協議会で視察研修を開催～	11月19日
53	上毛町・「第3回おいしいお米グランプリ」と「第7回川底柿グランプリ」を開催	11月19日
54	みやこ町農産物品評会開催	12月3日
55	先輩農家と新規就農者の交流を深めよう	12月4日
56	農事組合法人グリーンファーム大稗設立総会の開催	12月11日
57	京築地区青年・女性農業者等実績発表大会を開催	12月11日
58	キウイフルーツ「甘うい」産地拡大決起集会 開催！	12月12日
59	平成30年度全国優良経営体表彰で(株)ユーアスが受賞	12月14日
60	京築地域農産物直売所お買い物バスツアー3	12月17日
61	いちごの出荷目合わせ会開催	12月25日
62	みやこ・築上4Hクラブ合同視察研修会を開催！	12月25日
63	農業の未来は食育から	12月27日
64	水稻・麦類の採種研修会の開催	1月31日
65	いちごの新たな担い手を対象に栽培勉強会を開催	2月14日
66	松木果樹園 農林水産大臣賞 受賞！	2月18日
67	農地中間管理機構について学ぶ	2月19日

※閲覧は福岡県ホームページの「普及センター活動情報」を検索☞してください。

6 参考資料

(3) 普及指導センターの活動体制

■ 課・係体制



■ 班活動の体制

○プロジェクト班

土地利用型担い手育成推進班

総括：太田 推進員：大森
班員：手嶋、瓜生、今池、
福山、城戸、鬼木

園芸農業育成推進班

総括：城丸 推進員：川原
班員：清田、吉田、山内、
野方、兼近

○センター内運営事項における推進班

担い手育成推進班

普及情報推進班

経営体育成推進班

環境保全・食の安全推進班

○市町農振連等担当班

市町名	課長	地域係	各係・部門
行橋市 苅田町 みやこ町 豊前市 吉富町 上毛町 築上町	太田 城丸 城丸 城丸 太田 城丸 太田	吉田 吉田 清田 手嶋 瓜生 手嶋 瓜生	必要に応じ、農振連等の会議へ参加

■ 普及指導センター職員



(田中)

今池 福山 濱野 瓜生 高原 清田 堂脇 井上
 山内 福原 吉田 城戸 竹本 鬼木 川上
 兼近 野方 川原 城丸 山崎 太田 大森 手嶋

福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703605
登録年度 30	登録番号 0001



福岡県行橋農林事務所 京築普及指導センター

〒824-0005 福岡県行橋市中央一丁目2番1号

TEL (0930) 23-4215 / FAX (0930) 23-8290

URL <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705401.html>

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp